

用 語		解 説
用語 1	超高齢社会	WHO(世界保健機関)と国連の定義に基づき、65歳以上の人口(老年人口)が総人口(年齢不詳を除く)に占める割合(高齢化率)が21パーセント超の社会のこと。なお、65歳以上人口の割合が7パーセント超で「高齢化社会」、同割合が14パーセント超で「高齢社会」という。
用語 2	I C T	Information and Communications Technologyの略で、情報・通信に関する技術のこと。従来から使われてきたI Tと同様の意味だが、I Tの概念の広がりにより、替わってこちらが多く用いられるようになっている。一般的に「情報通信技術」と訳されることが多い。
用語 3	交通政策基本法	交通政策に関する基本理念やその実現に向けた施策、国や自治体等の果たすべき役割などを定める基本法制のこと。
用語 4	交通政策基本計画	交通政策基本法が提示する交通政策の長期的な方向性を踏まえつつ、政府が今後講ずべき交通に関する施策について定めている計画。計画期間は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催等を見据え、2014年度(平成26年度)を初年度とし、2020年度(平成32年度)まで。交通に関する施策の「基本的方針」、計画期間内に目指すべき「目標」、目標の各々について取り組むべき「施策」の三層構造となっている。
用語 5	ドア・ツー・ドア	出発地(自宅)の戸口から、到着地の戸口までの移動のこと。
用語 6	M I C E	Meeting(企業等の会議)、Incentive Travel(企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention(国際機関・学会等が主催する総会、学術会議等)、EventあるいはExhibition(イベント・展示会・見本市)の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント等の総称のこと。
用語 7	減災	災害後の対応よりも事前の対応を重視し、できることから計画的に取り組み、少しでも被害の軽減を図ること。
用語 8	生産年齢人口	総務省統計局の「年齢3区分別人口」に基づき分類される、15歳から64歳までの人口のこと。なお、0歳から14歳までを「年少人口」、65歳以上を「老年人口」という。

用語9	バリアフリー化	高齢者、障害者等が生活する上で、行動の妨げになる障壁を取り去り、高齢者、障害者等にやさしい生活空間を作りあげること（歩道の段差解消など）をいう。また、物理的な障壁ばかりでなく、高齢者、障害者等が社会参加をする上で、精神的にも障壁がないことも意図する。
用語10	都市計画道路	都市計画法第11条の規定に基づき、あらかじめルート・幅員などが決められた、都市の骨格となり、まちづくりに大きく関わる道路のこと。
用語11	インフラ	インフラストラクチャー（infrastructure）の略で、社会、経済、産業などの都市活動を維持し発展を支える基盤のことであり、都市構造の基幹的部分を指す。都市計画においては道路、公園・緑地、上下水道、河川などが該当し、その中で交通インフラとは、道路や鉄道などの交通基盤のことを指す。
用語12	混雑時平均旅行速度	平日の最も混雑する時間帯の旅行速度のこと。なお、旅行速度とは、道路の一定区間の距離を旅行時間（移動に要する時間）で割った値のこと。この旅行時間には、信号待ちや交通渋滞による停止時間も含む。
用語13	スプロール化	社会基盤などの都市計画的な整備に先行して、無秩序な市街地化が郊外部に向かって虫食いの進むこと。
用語14	グローバル化	地球規模で複数の社会とその構成要素の間での結びつきが強くなることに伴う社会における変化やその過程のこと。
用語15	回遊性	街を移動する人の流れのこと。都心臨海部においては市民や来街者が、多様な目的を持って多くの移動を可能にすることが回遊性が高いと言え、徒歩や自転車、公共交通等の移動しやすい交通環境が必要となる。
用語16	気候変動に関する政府間パネル（IPCC）	人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988年に世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）により設立された組織。
用語17	環境負荷	人が環境に与える負担のこと。単独では環境への悪影響を及ぼさないが、集積することで悪影響を及ぼすものも含む。環境基本法では、環境への負荷を「人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となる恐れのあるものをいう。」としている。

用語18	次世代自動車 ・FCV ・EV ・PHV	ハイブリッド自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル自動車、天然ガス自動車などのこと。 (FCV:燃料電池自動車、EV:電気自動車、PHV:プラグインハイブリッド自動車)
用語19	窒素酸化物 (NO _x)	物質が高い濃度で燃えた際に、空気中の窒素(N)と酸素原子(O ₂)が結びついて発生する、一酸化窒素(NO)や二酸化窒素(NO ₂)などのこと。特に二酸化窒素(NO ₂)は毒性が高く、高濃度で人の呼吸器(肺、のど、気管など)に悪影響を与えるため、環境基準を設けて常時観測している。主な発生源は自動車や工場等。
用語20	浮遊粒子状物質 (SPM)	一般的にマイクロメートル単位の固体や液体の粒のことを粒子状物質(PM)と言い、主に燃焼によるばいじんや黄砂のような土壌の飛散、海塩などの自然現象によるものも存在する。 粒子状物質(PM)のうち、粒径10マイクロメートル(0.01mm)以下の小さいものを特に浮遊粒子状物質(SPM)と言い、環境基準を設けて常時観測している。ディーゼル車から排出される粒子状物質(PM)は10マイクロメートル以下の細かい粒子が多く、また大気中に長く浮遊し、人の気道や肺に沈着して健康に悪影響を与える。
用語21	交通結節点	異なる交通手段(場合によっては同じ交通手段)を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設。移動の一連の動きの中のひとつの重要な要素であり、「つなぐ空間」と「たまる空間」としての役割を有する。具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、自由通路や階段、駅前広場やバス交通広場、歩道など。
用語22	ボトルネック	車線数が減少する場所や交差点など、交通混雑を引き起こす要因となるような場所のこと。
用語23	シームレス化	公共交通機関などの利用者が、複数の交通サービスを、乗り換えなどの抵抗が無く円滑に利用できること。
用語24	ビッグデータ	事業に役立つ知見を導出するため、生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量のデータのこと。近年このビッグデータの活用により、異変の察知や近未来の予測等を通じ、利用者個々のニーズに即したサービスの提供、業務運営の効率化や新産業の創出等が可能となっている。

用語25	N P O	Non-Profit Organizationの略で、様々な社会貢献活動を行い、営利を目的としない団体の総称。民間非営利組織などと訳される。
用語26	生活交通バス路線維持制度	既存のバス路線が廃止されることによる交通不便地域の発生を回避し、市民の日常生活の利便性を確保するため、必要と認められるバス路線で補助金を交付して維持を図る制度。
用語27	健康みちづくり推進事業	健康増進や外出意欲の向上に資する歩行空間を整備することにより、楽しみながら健康づくりに取り組める場を創出するとともに、一人ひとりの健康寿命を延ばし、いきいきと楽しく暮らせる活力ある横浜を創ることを目的とした事業。
用語28	自転車駐車場の附置義務制度	「横浜市自転車駐車場の附置等に関する条例」で定められた指定区域内で、一定規模以上の自転車の大量の駐車需要を生じさせる集客施設（遊技場、小売店舗、飲食店、スポーツ施設、銀行、病院など）及び共同住宅等を新築または増築する場合に、建物の設置者に対し、その敷地内または施設から50メートル以内の場所に、条例で定められた基準に従い算定した台数以上の自転車駐車場の設置を義務付ける制度。
用語29	ダイナミックプライシング	季節や時間帯ごとの需要を判断し、それに応じて価格を変動させること。
用語30	セミフラット化	歩道面を車道面より高く、かつ縁石天端高さより低くする構造のこと。
用語31	ノンステップバス	バス車両の床面が超低床で、車いす使用者のみならず、杖を利用している方、高齢者、ベビーカー利用者などさまざまな人々のスムーズな乗降を可能とするバス車両。
用語32	・ユニバーサルデザイン ・ユニバーサルデザイン タクシー	ユニバーサルデザインとは、「ユニバーサル（すべての、普遍的な）」と「デザイン（計画、設計）」という二つを組み合わせた言葉で、「あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。ユニバーサルデザインタクシーとは、広い開口部にスライドステップを備え、車いすのまま乗車できるなど、障害者や高齢者に配慮された誰もが使いやすい一般タクシー車両で、一般タクシー料金で利用可能。

用語33	「声かけ・サポート」 運動	鉄道等を利用される方が安全に安心して施設を利用できるように、お困りの方に対して積極的にお声かけを行うとともに、周囲の方からもお声かけにご協力頂くことを目的とする運動で、交通事業者が実施している。
用語34	バリアフリー基本構想	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に基づき、重点整備地区において、鉄道駅等の公共交通機関、道路や公園等の公共施設、高齢者、障害者などが利用する公共的な建築物等のバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進するため、重点整備地区の範囲、バリアフリー化を図る経路、バリアフリー化のために実施すべき事業の内容などを定めるもの。
用語35	福祉車両タクシー	歩行困難な方が車椅子のまま乗り降りしやすいように工夫されたタクシーで、外出や移動時のサポートを行う。
用語36	高度化バスシステム	横浜市が、都心臨海部の回遊性の向上及び賑わい創出を図ることを目的に導入する、「都心臨海部全体の回遊性を高め、市民だけでなく、観光客などの来街者にとっても、わかりやすく、使いやすく、快適に回遊できるバスシステム」を基本コンセプトとする、連節バスを活用した交通システムのこと。
用語37	モビリティマネジメント	一人ひとりの移動を対象としつつ、それらが社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを期待する施策であり、「過度な自動車利用の状態から、公共交通や自転車等を適切に利用する状態」に少しずつ変えていくための取組。
用語38	バスロケーションシステム	GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステム。
用語39	公共車両優先システム (PTPS)	バスなどの公共車両が優先的に通行できるように支援するもので、路上に設置した光ビーコンがバス車載装置からの信号を受信すると、進行方向の交通信号機をバス優先（赤の短縮、青の延長など）としバスを通過しやすくするシステム。
用語40	バスベイ	バス乗降客のため、本線車道から分離して設けたバスの停車帯のことで、本線車線から分離しているため、後続車の追越しが容易になる。

用語41	連続立体交差化	都市部における道路整備の一環として、道路と鉄道との交差部において、鉄道を高架化または地下化することによって、多数の踏切を一挙に除却し、踏切渋滞、事故を解消するなど都市交通を円滑化するとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を促進する事業のこと。
用語42	コミュニティサイクル	誰もが手軽に利用しやすい都市型の自転車のレンタルシステム。IT技術を活用したセルフ方式の貸し出し返却システムを採用したレンタル拠点がきめ細かにあり、様々な人が手軽に低料金で利用できる仕組み。ヨーロッパでは大都市から中小に至る都市で展開されており、世界各地でその取組は注目されている。
用語43	シェアリングモビリティ	移動手段である自動車や自転車を共同使用すること、またはそのサービス、システムのこと。
用語44	エコドライブ	急発進や急加速をしない、アイドリングストップの励行など環境に配慮した運転方法のこと。地球温暖化の原因とされる二酸化炭素や自動車から排出される排気ガスを抑制する等の環境改善効果があり、また、燃料代の節約効果もある。
用語45	カーシェアリング	一定のエリアで、自動車を複数の会員が共同で利用する自動車の利用形態。利用者は自ら自動車を所有するのではなく、「共有=シェア」して「使用」という仕組み。マイカーを所有しないことから、経済的にも地球環境にもやさしい新しい車の使い方。
用語46	緊急輸送路	地震等の大規模災害発生直後から、救助活動人員や物資等の緊急輸送を円滑かつ確実にを行うため、道路管理者等が事前に指定する路線のこと。
用語47	ライフサイクルコスト	構造物等の価格（建設費用）と耐用期間（寿命）が尽きるまでに要した修理（管理）費用および廃用に要する経費の合計額のこと。
用語48	ネーミングライツ	市と民間団体等との契約により、市の施設等に愛称等を付与させる代わりに、当該団体からその対価等を得て、施設の持続可能な運営に資する方法。
用語49	自転車道	縁石等の工作物により、構造的に分離された自転車専用の通行空間のこと。
用語50	自転車専用通行帯	交通規制により指定された、自転車が専用で通行する車両通行帯のこと。

【用語説明】

用語51	車道混在型	自転車の通行位置や進行方向を車道に明示することにより、自転車と自動車が車道で混在することを示した通行空間のこと。
用語52	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンプ ・狭さく 	<p>ハンプとは、通行する自動車の速度を抑制するために道路上に設けられた台形状の段差のこと。</p> <p>狭さくとは、通行する自動車の速度を抑制するために車両の通行部分の幅員を狭くした構造のこと。</p>
用語53	あんしんカラーベルト	小学生の通学路等のうち、歩道など歩行者空間が確保されておらず、今後も歩道整備が困難な路線において、警察署・地元町内会・学校と調整のうえセンターラインを消去するなど路側帯の拡幅を図り、路側帯をカラー化して歩行者空間を確保するもの。



横浜市都市整備局都市交通部都市交通課

平成 30 年 10 月作成

横浜市中区港町 1 - 1

Eメール tb-toshiko@city.yokohama.jp

電話番号 045-671-4128

FAX 番号 045-663-3415

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/toshiko/plan/>